

一昨年、そして昨年。二
年続けてNGO(非政府組
織)関係者の「夢」が岡山
で実現した。

「おかもま国際貢献NG
Oサミット」―地方都市
では珍しいNGOの国際
会議開催だ。昨年十一月
の第二回には、海外からパ
キスタン、バンングラディ
ネパールなどアジア、アフ
リカを中心に二十九国・約
四十人が参
加。国際的な
姉妹校縁組を
支援する岡山
宣言を採択す

トピアの会理事でノートル
ダム清心女子大学教授横山学
さん(右)岡山市浜江は強
調する。

NGOサミット

るなど一定の成果をあげ
た。

主催は「国際貢献トピア
岡山構想を推進する会」(ト
ピアの会)。平成六年一月、
岡山県下の自治体やNGO
など五十数団体や一般市民
の賛同を得て結成された。
現在、NGOとしては約三十
十団体が加盟する。

「岡山」の各種団体が会に
結果することでサミットは
実現した。地域に広がる輪
が大きな原動力となった。

生の声聞き国際理解

の意義を話す。
「目的も方針も異なるNG
Oの運動が根付き、大きく育
っていくためには、ネットワ
ークが必要。あそこが頑張っ
ているなら、うちも頑張らう
というような、互いの活動を
支え合い、はぐくむためのコ
ミュニケーションの場が大
切」と指摘する。

サミットは、アジア医師
連絡協議会(A.M.D.A)本
学部に在学中、独特の文化を持

つ沖縄に興味を
持ち、文化史研
究の道へ。成城
大と筑波大の大
学院修了。一貫
して沖縄の歴史
と文化の研究に
取り組んでき
た。

部岡山市楯塚が中心とな
り、岡山を国際貢献で世界
の発信地にしようと呼びす
る「国際貢献トピア岡山構
想」の一環として企画され
た。

一方で、地元
の街づくりの会
に参加するな
ど、地域の問題
にも熱心だ。

「サミット開催自体、大
きな成果だが、A.M.D.A
だけでなく他の多くの地元
NGOが集まり、ネットワー
クの参加は、沖縄
のかかわりが
きっかけだっ

た。第一回のNGOサミット
でA.M.D.Aから沖縄でのサテ
ライト会議(分科会)の計画
を依頼され、実現させた。N
GOのネットワーク化と岡山
の地域おこしを目的とした会
の趣旨に賛同したからだ。

違いを認識

サミットのもたらした影響
は大きかった。
「生存のための教育」を主
題にした昨年のサミット。海
外代表の報告では、貧困に悩
むアジア、アフリカの国々か
らの生々しい訴えがストレー
トに伝わってきた。「生の声
を聞くことで、国や文化の違
いが超えられ、国際協力につ
いてともに考えることができ
る」と横山さん。

さらに、サミットでは、海
外参加者のホームステイ受け
入れや、県下七会場でのサテ
ライト会議で
の地域住民と
のふれあいな
ど、国際化の
輪が広がっ
た。

「お互いを知るには、違
いを認識するのが出発点。
なぜ考え方が違うのか。ど
うして貧富の差があるの
か。違いを見つめることが
正しい理解が生まれ、正
しい関係を築くことができ
る」と横山さん。

横山さんの国際化への理
念は、テーマにしてきた文
化史の研究によりどこまで
ある。「小さなカルチャー
ショックを重ねることが、
お互いを理解するきっかけ
になる。異なる歴史や文化
に対して、どこまで自分の
内側の垣根を低くし、内面
における国際化ができるか
だ」。目指すのは、内なる
国際化である。



NGOの連携による地域おこしを訴える横
山さん=4月13日、岡山市市内でのトピアの
会総会

交流の場

今年一月、岡山県下のN
GOに新たな交流・連携の
場が誕生した。毎月一回開
く各NGOの報告会「ネット
トピア ネットワーキング講
演会」だ。各団体の相互理
解の促進と、県民への啓も
うなどが狙いだ。

海外NGOも含めて一堂
に会するサミット、さらに
トピアの会を通じた交流
によって、NGOの活動も
一段と広がりを見せてい
る。

NGOサミットは今年も
十一月、岡山で開催される。
横山さんは「ネットワー
ク化によるNGO活
動の促進。それが『世界都
市』への第一歩になる」

この連載は読者ごと
に地域づくりを考える企
画です。山陽新聞社「く
に」づくり 熱き人々
取材班(電話0866-2
44-6779、ファク
ス0861-244-149
23)まで、ご意見、ご
感想をお寄せください。

熱き人々